



NPO 法人

首都東京みなと創り研究会

東京都練馬区西大泉3丁目13番44号

理事長 小倉 健 男

<http://members3.jcom.home.ne.jp/mtport>

活動報告

横浜港コンテナターミナルの見学

横浜港コンテナターミナルの見学会を横浜市港湾局の案内により平成20年11月19日に実施しました。

見学したコンテナターミナルは南本牧のMC-1、2と本牧のBCで、現在、この2つのコンテナターミナルで横浜港全体の約62%（TEUベース）のコンテナを取り扱っております。

南本牧埠頭MC-1、2は平成13年4月に供用を開始し、借受者はA. P. モラー・マースクです。岸壁延長700m、水深-16m、我が国最大の22列対応型のガントリークレーンが5基装備されています。

平成19年のコンテナ取扱実績は97万TEUで、バース当たり約50万TEU（大井は

平均約30万TEU／バース）、水際線1m当たり約1400TEU／年（大井は約900TEU／年）です。

次に、本牧BCコンテナターミナルは、平成17年12月に全面供用を開始した横浜港メガターミナル(株)が運営する次世代高規格コンテナターミナルです。岸壁は総延長1,390m、水深13～15m、ガントリークレーンは合計13基装備されています。

07年のコンテナ取扱実績は99万TEUで、110万TEUが限界といわれていますので、殆んどフル稼働の状況になっています。

元気な横浜港を垣間見た見学会でした。



横浜市港湾局からの説明



南本牧埠頭 MC1,2 コンテナヤード



本牧埠頭 B,C コンテナヤード

「海の森」の植樹イベントに参加しました

東京都では、昭和 48 年から 61 年の間、ごみの処分場として埋立てられた中央防波堤内側埋立地を「海の森」として整備する計画です。

この計画に基づき、本年からボランティアによる植樹イベントが開始されました。当 NPO も活動方針に基づき、平成 20 年 11 月 8 日、ゴミと残土の島を緑豊かな森にする「海の森」の植樹に参加してきました。

当日は小雨がぱらつく中 6 名の NPO 会員が参加しタブノキ、スダジイ、エノキ、クロマツ等おおむね 30 年後の森を想定しながら植樹リーダーの指導の下①スコップで穴を掘る②ビニールポットをはずし苗木をまっすぐ立てる③隙間にしっかり土を入れる④根元を踏

んで固めるこれで完了。一人 10 本ぐらい植え付け約 1 時間の作業を終了し気持ちの良い汗をかきました。

現在、シイ、カシ、クス等広葉樹がうっそうと茂り野鳥たちの棲み家となっている都心のオアシスでもある明治神宮も約 90 年前にボランティアで植樹をした人工林です。

「海の森」も将来これに負けない森になることと思います。これには今後の継続した植樹、雑草を刈るなどの育樹が必要とのこと、NPO としても今後協力して行かなければと思います。



参加した NPO メンバー



NPO のお揃いのジャンパー、帽子で作業

東京港埠頭㈱との意見交換会を実施

平成 20 年 10 月 24 日、冊子「首都港湾東京港・・・課題とその対応についての提言（その 2）・・・」を基に東京港埠頭㈱と NPO の意見交換会を実施しました。

東京港埠頭㈱からは技術部長はじめ 8 名の方に出席していただき、NPO からは会員 9 名の参加がありました。

当日は、当 NPO の「首都港湾東京港・・・課題とその対応についての提言（その 2）・・・」の概要を説明し、主に大井 CY の背後道路改良や CY の拡張、整備中の立体コンテナラックの活用等について活発な意見交換を行い、東京港における大井 CY の重要性を確認しました。



小倉理事長ほか NPO 会員



大和田技術部長ほか埠頭㈱の皆さん

鉄鋼スラグの調査委員会を開催しました

「鉄鋼スラグ製品等が東京港の水辺環境の改善に及ぼす効果に関する調査研究」に関する第3回技術評価委員会は、平成20年12月16日に開催されました。夏季と秋季のモニタリング調査の結果、スラグと浚渫土を混ぜたスラグ混合土堤と既設護岸との間には、底生生物としてアサリやホンビノスガイ等の生息数の増加、また、スラグ混合土堤には付着生物のフジツボ

やゴカイの他ムラサキイガイなど、生息種の増加が確認されました。スラグ混合土堤は、天然石堤と同様に、付着生物の生息基盤として機能していることが判明しました。今後、両試験堤において水質・底質・底生生物・付着生物等の冬季調査を行う予定です。また、併せて、両試験堤に設置したワカメやアカモク等の海藻類の幼体の生育状況等を観察する予定です。



混合土堤と既設護岸との間のホンビノスガイ



ブロックにつけたアカモクの設置状況

海藻類の幼体の設置 2008年11月28日



ロープにつけたワカメの設置状況



ロープにつけたコンブ

景気と港湾

2年2月に始まった景気回復は、約70ヶ月と息は非常に長かったものの、実質経済成長率が年平均2.2%とその勢いは弱く、景気回復の実感に乏しいものでありました。また、この間、輸出の伸びは年率11.4%で、実質成長率への輸出の寄与率は約60%と個人消費や設備投資を大きく上回り、ある意味でバランスの悪いものでありました。しかし、この輸出主導の景気回復は、港湾にとっては追い風となりました。02年以降、五大港の輸出貨物の伸びはかなりのハイペースで推移してきております。特に、横浜港と名古屋港のコンテナ貨物量（FTベース）は年率10%以上の伸びとなっており、その港勢の拡大に大きく寄与しています。

08年は、既に景気後退局面に入り、その影響が主要港の港勢にどのように表れるかを注視していましたが、9月のいわゆるリーマン・ショック以後、未曾有の金融危機が全世界に波及し、同時にモノが売れなくなるなど实体经济にも飛び火し、収益や雇用の悪化など不況色を著しく強めたまま年を越すことになってしまいました。

山崎 貞元

09年は、昨年から続く厳しい不況のなか、新たな成長要素も見当たらないまま年が明けてしまいました。輸出による景気回復も、世界的な金融危機とその後の实体经济の悪化による不況の深刻化もグローバル化の結果であります。今後、日本が生きていくに当たってはこのグローバルイズムの波に乗らざるを得ません。後戻りはできません。グローバルなヒト、モノ、カネそして情報の流れは益々活発になり、それに対応する海運・港湾、航空・空港の役割は重要となることは自明の理であります。しかし、何よりも大切な前提は、世界が政治的にも経済的にも安定すること、そして平和が保たれることであることを肝に銘ずることでありましょう。



事務局から

事務局長
事務局大野 皓一郎
清水 武雄090-6018-1013
090-3427-0370

早いもので、当NPOも発足以来3回目の新年を向かえました。

本年は「つぶやき」にもありますように、去年起きたアメリカ発の100年に1度の経済危機を引きずり、港湾にとっても厳しい年となることでしょう。

このような状況にあります、新年のNPO活動は、講演会の開催や他港の視察等盛りだくさんの研究を進める予定でいます。会員の皆様もぜひ各種活動に積極的に御参加ください。